

決 算 報 告 書

第 6 期

自 平成28年11月 1日

至 平成29年10月31日

温泉の素.com株式会社

長野県飯田市中村1758-2

貸借対照表

温泉の素.com株式会社

[税込] (単位:円)
平成29年10月31日 現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		買掛金	5,795,084
現金	172,507	短期借入金	1,000,000
小口現金	395,434	預り金(源泉)	77,154
J Aバンク	589,221	預り金(住民税)	73,400
ジャパンネット銀行	2,255,060	未払法人税等	71,000
けんしん	298,771	未払消費税	3,973,900
八十二銀行	3,659,759	流動負債計	10,990,538
定期預金(J A)	1,000,407	【固定負債】	
定期積金(八十二)	2,119,300	長期借入金(けんしん)	5,466,000
現金・預金計	10,490,459	長期借入金(八十二)	17,287,000
(売上債権)		長期借入金(役員)	17,791,400
売掛金	11,295,324	固定負債計	40,544,400
売上債権計	11,295,324	負債の部合計	51,534,938
(棚卸資産)		純 資 産 の 部	
商品	7,169,338	【株主資本】	
棚卸資産計	7,169,338	資本金	10,000,000
(その他流動資産)		(利益剰余金)	
短期貸付金	500,000	[その他利益剰余金]	
未収入金	207,851	繰越利益剰余金	△8,875,205
その他流動資産計	707,851	利益剰余金計	△8,875,205
流動資産合計	29,662,972	株主資本計	1,124,795
【固定資産】		純資産の部合計	1,124,795
(有形固定資産)			
建物	6,599,470		
機械及び装置	11,023,125		
車両運搬具	2,017,944		
工具器具備品	693,334		
一括償却資産	1,189,804		
有形固定資産計	21,523,677		
(無形固定資産)			
ソフトウェア	1,132,584		
無形固定資産計	1,132,584		
(投資その他の資産)			
敷金	340,500		
投資その他の資産計	340,500		
固定資産合計	22,996,761		
資産の部合計	52,659,733	負債・純資産の部合計	52,659,733

損 益 計 算 書

[税込] (単位:円)

温泉の素.com株式会社

自 平成28年11月 1日 至 平成29年10月31日

【売上高】		
温泉の素売上高	141,840,358	
化粧品売上高	2,273,621	
売上値引高	<u>△42,871</u>	
売上高 計		144,071,108
【売上原価】		
期首商品棚卸高	<u>5,147,150</u>	
期首商品・製品棚卸高	5,147,150	
温泉の素仕入高	48,533,085	
化粧品仕入高	680,238	
仕入値引高	<u>△170,179</u>	
当期商品仕入高	<u>49,975,141</u>	
合 計	55,122,291	
期末商品棚卸高	<u>△7,169,338</u>	
期末商品・製品棚卸高	<u>△7,169,338</u>	
売上原価 計		<u>47,952,953</u>
売上総利益		96,118,155
【販売費一般管理費】		
(人件費)		
人件費 計	61,909,584	
(その他経費)		
その他経費 計	<u>40,002,659</u>	
販売費・一般管理費計	<u>101,912,243</u>	
営業利益		△5,794,088
【営業外収益】		
受取 利息	478	
受取配当金	10	
売電 収入	1,450,299	
雑 収 入	<u>293,363</u>	
営業外収益 計	1,744,150	
【営業外費用】		
支払 利息	<u>263,525</u>	
営業外費用 計	<u>263,525</u>	
経常利益		△4,313,463
【特別利益】		
特別利益 計	0	
【特別損失】		
特別損失 計	<u>0</u>	
税引前当期純利益(損失)		△4,313,463
法人税、住民税及び事業税		<u>71,000</u>
当期純利益 (損失)		<u>△4,384,463</u>

販売費及び一般管理費内訳書

[税込] (単位：円)

温泉の素.com株式会社

自 平成28年11月 1日 至 平成29年10月31日

(人件費)	
給料 手当	50,133,645
役員 報酬	3,300,000
雑 給	43,200
退 職 金	1,150,000
法定福利費	3,792,513
福利厚生費	3,490,226
人件費 計	<u>61,909,584</u>
(その他経費)	
外 注 費	931,997
通 信 費	329,248
荷造 運賃	3,213,987
水道光熱費	538,007
旅費交通費	3,585,343
広告宣伝費	668,100
接待交際費	233,212
事務用消耗品費	1,205,715
備品消耗品費	5,656,321
研究開発費	40,155
新聞図書費	205,070
研 修 費	11,852
修 繕 費	3,005,289
地代 家賃	8,250,966
車両燃料費	525,217
車 両 費	152,319
保 険 料	1,739,826
租税 公課	1,123,161
諸 会 費	149,550
支払手数料	1,459,318
減価償却費	6,227,751
管 理 諸 費	72,000
雑 費	<u>1,610,252</u>
その他経費 計	<u>40,002,659</u>
販売費・一般管理費計	<u>101,912,243</u>

平成 29 年 12 月末日

各従業員
お取引先の皆様へ

平成 29 年 10 月（第 6 期）決算のご報告

温泉の素.com 株式会社
代表取締役 鈴木健太郎

平素は、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
別紙の通り、第 6 期の決算がまとまりましたのでご報告申し上げます。

<はじめに・・・当期の主な動き>

■特にありません。

主だった内容はありませんでした。

念願であった、人手不足の解決方法としてフィルムへの印刷手段（設備投資）を見出しました。後述します。

■損益計算書

【売上】売上 14,407 万円（対前年+2174 万円=117.8%）

内訳：温泉の素 対前年+2036 万円、化粧品 対前年+142 万円

主力の温泉の素については、例年通り売上が伸びたが、例年報告しているように、手作業による製造であるので、人員を増加しないと製造が追いつかない状況である。今期も会社売上を押しえているつもりであったが、大きく伸びてしまった。

伸びた要因としては、取引先の温泉施設の増加と雑貨量販店向きの変わり種商品（焼き肉の湯やチゲ鍋の湯、ラーメンの湯など）がヒットしたことが要因にある。

化粧品事業については、昨年手ごたえを感じ、徐々に既存温泉の素取扱い施設に PR してきたが、その効果が出始めたことが要因にある。今後も倍増するであろう。

【仕入】仕入 4795 万円（対前年+625 万円=115.0%）

内訳：温泉の素 対前年+1009 万円（126.3%）、化粧品対前年-232 万円（22.6%）

温泉の素については、売上の伸びに対し人員の確保が難しいので、外注としてラベル印刷やフィルム印刷を行って手作業でラベルを貼らなくていいように政策として行っている。売上の伸び率よりも伸びているのは、そのためである。化粧品については、ボトルなど昨年に仕入れた在庫があったので、大幅に仕入は減った。

【販売費及び一般管理費】10191 万円（対前年+1829 万円=121.9%）

内訳 広告宣伝費-36 万円、荷造運賃+44 万円、研究開発-42 万円、役員報酬+330 万円、給与+1179 万円、退職金+115 万円、雑給-26 万円、減価償却費 184 万円、賃借-8 万円、修繕費 181 万円、事務用品-36 万円、消耗品-223 万円、旅費交通費+56 万円、支払手数料-52 万円、租税公課+40 万円、交際費-5 万円、保険料+5 万円、通信費+0 万円、諸会費+12 万円、車両費-2 万円、地代家賃+2 万円、燃料費+14 万円、分析研修費-2 万円、管理諸費+7 万円、雑費 42 万円らである。

長年勤めた営業スタッフの退職により売り上げ減を心配し営業スタッフを 2 月に補充した。1 月～3 月まで実際に退職者は不在であったが、4 月より仕事復帰し、営業が過剰人員となった。

また、売上の増加を予想し、また人員採用の困難さを予想し早期に人員を確保したため、製造による人員増加により人件費が伸びた。+1179 万円（内、社長報酬+330 万円）

減価償却費の主なものは、昨年導入の太陽光発電 103 万やイオンクロマト 207 万、ブリス 100 万円らによるものである。今年度は大幅な設備投資は特にしていない。修繕費の

増加は、研究室の機の引き出し修繕や、ラベル印刷室の床修繕、温泉の素混合ドラムの修繕、建物のブレーカー修繕、焼却炉の修繕などである。

したがって、販売管理費の伸び＝人件費（役員報酬＋給与）の伸びとみなしてよい。後述するが、この人件費の伸びを縮小するため、設備投資をおこなう予定である。

【営業利益】－ 579 万円（対前年－280 万円）

【経常利益】－ 431 万円（対前年＋57 万円）

【総論】

今年は、売上を押さえたつもりであるが、伸びてしまった。

当社は、小ロット生産であるがゆえに、製造を手作業に頼っているウエイトが大きい。他社に奪われにくい強みではあるが、一方で売り上げを 1000 万円アップするには、年間給与 100 万円程度のパートさんで 3 人ぐらい雇わなくてはならない。新人さんを雇い教育すると同時に、入社 3~4 年のパートさんに他の部門との掛け持ちをお願いし、中堅も育ててゆかねばならない。

製品回収など不良を出さずに安定的な成長をするためには、人財育成とともに売上アップをしていかねばならない。・・・(昨年同様のコメント)

先にも述べたが、赤字の要因は、①人件費の増加（役員報酬、営業スタッフ、製造）、②減価償却費の増加である。

来年度は、設備投資（3300 万円程度）により減価償却費が大幅に増加する。

人件費は、その設備投資によって減少する予定である。（自然退職による減と残業減）（後述）

したがって、売上増加↑、仕入増加↑、販売管理費↑（人件費↓、減価償却費↑）、利益 0 の予定である。

■貸借対照表

【流動資産】2966万円（対前年+445万円=117.7%）

内訳：現金+391万円、受取手形-23万円、売掛金-121万円、商品原料+202万円である。

【固定資産】2299万円（対前年-542万円=80.9%）

内訳：建物-38万円、機械装置-315万円、車両運搬-100万円、工具器具69万円、一括償却-118万円、ソフト-38万円である。

【流動負債】1099万円（対前年+551万円=200.7%）

内訳：買掛金の増加+42万円、短期借入（役員）+100万円、未払消費税+400万円。未払い消費税（決算後納税分）のみの増加である。

【固定負債】4054万円（対前年-210万円=95.1%）

内訳：長期借入金2275万円（-815万円）、役員長期借入1779万円（+604万円）。銀行借り入れ（有利子負債）が減って、役員借入（内部留保としての意味合いが大きい）が増加。

【株主資本】112万円（対前年-438万円=20.4%）

株主資本が減って、資本金1000万円のうち、残り112万円となった。決算書面上、債務超過に陥る恐れがある。

【総論】

銀行借り入れは予定通り返済している。

長期社長借入れの増加604万円（実質的に返済不要であり将来の資本金の増加原資）を加味すれば、実質黒字である。

株主資本が減少し、決算書面上、債務超過に陥る可能性がある。したがって、内部留保の意味合いが大きい役員借入金1779万円のうち、1000万円を増資していただく。

（本報告書作成時点12月末では、社長より1000万円の増資（12月18日）を受け、長期社長借入れを返済している。）・・・（役員長期借入が1000万円減って資本金が1000万円増えた）

【第7期の重点施策】

■売上面

<温泉の素分野>

ホテルレストランショーへの出展2月(6年目)と、電話営業に尽きる。現在1000施設まで予定通り伸びてきた。

次期は、後述する設備投資によりラベル貼りに掛ける手間を少なくし、人員に頼らなくとも売り上げていく体制を確保する。取引先に対包装形態の転換をお願いしていく。

<入浴剤分野>

6期中に変わり種の入浴剤をつくり、大手の雑貨量販店で採用された。テレビでも変わり種商品として取り上げられ、手ごたえを感じている。

小ロット生産にこだわる中で、後述する設備投資をはかり、変わり種商品の展開を考えたい。ギフトショーのような雑貨品の展示会、あるいはノベルティーの展示会などで露出してゆきたい。

<化粧品の分野>

今期80件の目標としたうえで、51件を獲得した。目標には届かなかったが、堅調と考えている。来期も少しずつであるがこのペースで成長させていきたい。

■設備投資

フィルム印刷機、ウエイトチェッカー(2機)、自動充填包装機(2台目の導入)を図り、社内生産体制の大幅な転換を図る。(平成30年1月中旬予定)

今まで小ロット生産体制の中で、どうしてもラベルの手貼り作業が必要となっていた。これを、フィルムに印刷された状態で自動充填包装をし、ウエイトチェック後、そのままダンボール梱包をする体制とする。熟練がいるラベル貼り作業(年間85万個・ラベル枚数で170万個)がかなり少なくなる。削減される費用(ラベル紙代331万円、ラベル印刷代289万円、貼り手間430万円 合計1050万円)がある。うち、貼り手間にかかっていた人員は全て削減できるわけではないが、600万円程度の削減効果により、これら設備投資分を回収し、合わせて年々売上増加している分(毎年売上2000万円増加=人件費増加)の対応を果たしたい。

売上増にともなう人員の不足という課題の解決

現在6期を振り返り、年々売り上げが増加している。(1期6126、2期6968、3期7909、4期9574、5期12232万円、6期14407万円)

大手企業がやらない小ロット生産に重きを置いているので、競争が少なく大手企業に奪われにくいという特徴があるが、反面、手作業の部分が大半を占める生産体制である。したがって、売上が伸びることはとても良い事ではあるが、伴って人員の増加が必須である。売上が1000万円伸びるごとに、パートさん(年収100万円程度)であれば3人ほど補充しなければならず、手作業ゆえに慣れるまでに時間がかかり、人的生産体制の確保という悩みが尽きない。・・・現在まで、注文から4日程度で製造し、温泉施設には7日で納品できている。次期の設備通しにより繁忙期11月や12月、GW前、お盆前の余力ができ、特に冬場の生産体制に明るい兆しとなる。

■6月に社員旅行 金沢を予定

金沢への旅行を予定している。昨年より、従業員給与から旅行等への積立(会社会計とは別)ができているので、特に際立つ福利厚生費の支出予定はない。

■増資

決算書上、債務超過に陥る危険性があるので、増資する。

前述したが、本報告書作成時点 12 月末日では、12 月 18 日付けで 1000 万円の増資を行い資本金 2000 万円としている。

■入浴剤.net との連携 (nyuuyokuzai.net)

現在、「温泉の素.com ホームページ」は抗菌美装㈱に委託し更新している。同様に委託していくとともに、「入浴剤」というキーワードで検索上位にくるように努力していきたい。

今年度、雑貨量販店向けの商品に手ごたえを感じたので、雑貨としての入浴剤市場へ商品展開を試みたい。

	温泉の素.com	入浴剤.net
取り扱い品目の概要	温泉施設向け温泉の素 ・温泉分析書を基に配合 ・本物志向 ・粉末	雑貨販売店向けの入浴剤 ・四季やトレンドに合わせて展開 ・粉末 (バブルバスは液体)
ターゲット	30~70 歳の温泉好き 本物志向を求める方 効果効能を求める方	20 歳~40 歳 女性
ユーザー価格	大 840 円~1500 円 小 130 円~200 円	小 150 円~300 円
製造ロット数	大 50 個~ 小 200 個~	小 200 個~

大手入浴剤メーカーと競合しない、小ロットの分野を開拓する。

■雑貨展示会への出展の検討

上述の雑貨品を展開していくにあたり、展示会への出展を検討する。什器備品類は既に揃っているの、単純に出展費用 (ブース小間代、交通費、宿泊費、人件費) の検討である。